

一九一三(大正二)年創業の名古屋・栄の料亭「葛茂」が、岐阜県大垣市の食品製造販売「デリカサイト」に株式を譲渡し、100%子会社になった。老舗のブランドを残しつつ、弁当などを含むすべての事業と従業員を同社が継承。百年を超える伝統を後世に受け継ぐ。  
(服部桃)

# 伝統の料亭 葛茂 次代へ

## 将来模索 大垣の食品会社傘下に

葛茂は、譲渡後に会長に就任した前社長・深田正雄さんの祖父が、旅館として開業。四五年の名古屋大空襲で全焼したが、終戦間もない四六年に新しい店舗で営業を再開した。繁華街にありながら、ニシキゴイが泳ぐ池や石灯籠のある庭園を備え、落ち着いた料亭として長く財界人らに愛



カウンターを備えた店内に立つ深田正雄会長＝名古屋・栄で



料亭葛茂 1913年、金融業を営んでいた深田良矩(よし

のり)が、名古屋市八百屋町(現在の中区栄)の葛茂旅館を接待料亭として取得し開業。店名は、名古屋・大須で上演されていた戯曲「一本刀土俵入」の登場人物、お葛と茂兵衛(もへえ)に由来する。数寄屋造りの旧店舗は、創業100年の2013年に名古屋市

の登録地域建造物資産に登録され、店舗の移転後に取り壊された。

デリカサイト 1972年、「水都食品」として岐阜県大垣市で創業。総菜店「美濃味匠」「デリカサイト」、飲食店「OSOZ Ai+バル 美濃味匠」など、愛知、岐阜県の大規模商業施設や駅構内を中心に60店舗以上を展開する。

## ブランド継承、強化期待

にも力を入れ、一〇年にはジェイアール名古屋高島屋に出店した。古い店舗は後に取り壊されている。

事業譲渡は深田さんが昨年七月、旧知だったデリカサイトの創業者、堀富士夫・代表取締役ファウンダーに打診した。葛茂の経営はおおむね順調だったが、後継者がいないことなどを含めて将来を模索。ともに弁当事業に携わるだけでなく、町の美化運動など地域に貢献する堀さんの経営者としての姿勢に共感し、十月三十一日付でデリカサイトの傘下になった。

深田さんは「葛茂のことを非常に理解してくれており、事業承継につながる。ブランド価値が高められる」と期待。堀さんは「ブランドを高めながら、双方が持つ技や品質管理、企画の力を合わせて強化していきたい」としている。

東海地方ではバブル崩壊やリーマン・ショックのおおりに受けるなど、さまざまな理由で経営権を譲渡した老舗が少なくない。一九九七年には名古屋市内最古とされ、四百年近い歴史を持つ中区の料亭「河文」が東京の企画会社に経営権を譲渡した。

岐阜市の料亭「ひら井」は、後継者不在などを理由に葛茂と同じデリカサイトへの事業譲渡を申し入れ、昨年二月から傘下に。十一月には、鮎や飛騨牛など岐阜県の味覚を売りにした新店舗が名古屋駅前オープンした。

